

ヒミコ即時の天変

Heavenly Accidents in Himiko's Enthronement

作花一志 (京都情報大学院大学)

Kazushi Sakka (The Kyoto College of Graduate Studies for Informatics)

超長寿のヒミコ

幻の女王ヒミコ、彼女は 1000 年以上も日本人を惹きつけ、また悩ましてきました。その出典はもちろん『魏志倭人伝』、その本格的な研究は江戸時代からですが、すでに『日本書紀』の成立前から行われてきました。ヒミコとは誰か？彼女がいた邪馬台国はどこにあったか？卑弥呼とは中国での当て字でこの字にこだわることはありません。America にアメリカとか亜米利加とかいう字を当ててるようなものですから。わが国的には日巫女あるいは日御子でしょうが、ここではヒミコと書くことにします。ヒミコは 238 年から何度も魏へ使いを出しています。その時の魏の皇帝明帝は曹操の孫で呉・蜀と戦い続けていましたが、はるか遠国から来た女王に気前よく親魏倭王の称号、金印紫綬、銅鏡百枚さらに黄金、錦織物、刀剣などを授与します。これは魏帝への忠節、種人への綏撫を期待しての破格の待遇です。ヒミコはそのお墨付きで周囲の国々へ自らの権威付けをします。晩年、正始八年(247 年) 狗奴国と争いのことが魏の朝廷に報告され、その年か翌年に魏使が来ますが、まもなくヒミコはなくなります。葬儀の後には後継者争いが起こり 1000 人以上の死者が出ますが、魏使の主導でトヨという少女が王となって収まります。

ヒミコの没年はかなりはっきりわかりますが、生年はわかりません。ただ即位年については『後漢書』の記載が重要なヒントになります[1]。

倭国はもともと男王が治めていた。桓帝・靈帝の治世の間(後漢: 146 年~189 年) に大いに乱れ、互いに攻めあっていたが、ひとりの女子を共立して王とし、名付けて卑弥呼と言った。年すでに長大であるが夫婿はいない。弟が補佐して国を治めていた。

これを文字通り解釈すると、たとえヒミコが靈帝の末期に 10 代で即位としても、魏の使いを出したのは 50 年後で 60 歳過ぎ、狗奴国と戦っていた時には 80 歳近い老婆です。即位年が繰り上がれば彼女はゆうに 100 歳を越えて在位していたことにもなります。彼女は「鬼道をよくしていた」ので、当時の平均寿命の 3 倍も生きて、倭国連合を率いていたなんて、どうみても不自然ですね。『魏志倭人伝』には「倭人は長命で、百歳か、八・九十歳の人が居る」という記載があります。当時の倭人は暦を知らず、どんな歳の数え方をしていたのかわかりませんが、とてもそのまま信じられません。他にも不可解な数がよく出てきま

其八年 太守王頎到官倭女王卑彌呼與狗奴國男王卑彌弓呼素不和遣倭載斯烏越等詣郡說相攻擊狀遣塞曹掾史張政等因齎詔書黃幢拜假難升米爲檄告諭之卑彌呼以死大作冢徑百餘步徇葬者奴婢百餘人

其國本亦以男子爲王住七八十年倭國亂相攻伐歷年乃共立一女子爲王 名曰卑彌呼事鬼道能惑衆年已長大無夫婿有男弟

圖 1
後漢書東夷傳
魏志倭人伝

す。有名なのは朝鮮半島から邪馬台国へいたる道程で「水行十日，陸行一月」などを加えていくと，邪馬台国ははるか九州の南方海上になってしまうということが，すでに江戸時代から言われています。また邪馬台国の人口は七万戸と書かれています。当時は大家族で1戸に10人くらいは同居していたので，人口70万の大国になります。これは邪馬台国だけでなく倭国の総人口だという説もあるそうです。人間の記憶は数が一番あてにならないものです。数字は忘れやすい。これは現代の私たちもよく体験することです。11桁の電話番号や証書の受付番号なんかとても覚えられません。また日付や時間の間違いなどは日常茶飯事です。

この超長寿の謎を解くには初めのヒミコと後のヒミコは別人と考えるのが最適解でしょう。2人でなく3人かもしれない，とにかく1人ではないということです。『魏志倭人伝』は伝聞録であり，魏の使者も女王には会っていません。宮殿の奥で千人の兵士召使いに守られて暮らしているヒミコの真の姿を知っているのはごく少数です。民衆や外国人には女王が代わってもわかりません。女王はみんなヒミコという名前だったのでしょうか？いやむしろヒミコとは固有名詞ではなく，女王の称号ではないのでしょうか。社員が社長を，家臣が主君を姓名で呼ぶことがないように，民が王を名前で呼ぶことはありません，それは古代でも現代でも同じです。トヨも女王になってからは民からヒミコと呼ばれたことでしょう。倭国の民は，正確な発音は不明ですが，日の巫女（あるいは御子）という意味で女王をヒミコと呼んでいたのを，魏の使者は卑弥呼と記した，ところがいつの間にか女王の名前と思われるようになってしまった・・・と推察できます。

連年の大日食



図2 247年の皆既食

という不安を駆り立てる壮絶な光景です。

また翌年の9月5日の早朝にも起こりました。その皆既帯は能登半島から北関東さらに太平洋上に長く伸びています。中国ではまだ夜明け前，朝鮮半島では低空の東天



図3 248年の皆既食

この皆既日食が見えた陸地は地球上で本州の一部だけですから黒い太陽の記録は世界中どこにもありません。近畿でも九州でも部分食とはいえ太陽は9割欠けます。太陽が欠けていく過程は見られず現れた時にはすでにやせ細った状態，そしてすぐに復円が始まり，7時にはすべて終了します。この日食の後半の過程を見た当時の人々はきっとホッとしたことでしょう。もしあなたがこれら2つの日食を眺めたとしたらどのように感じますか？これらの日食は現在PCで再現できますが，日食の記載はどこにもありません。ただしこれらの日食は人々の記憶に残って伝承として伝えられていないものか・・・いやあるのです，記紀の中に。いうまでもなくアマテラスの天の岩屋戸日食です[2][3]。



図4 ヒミコと日食(中西久崇)

この日食候補は多数ありますが詳細は省略します。結果として

247年の日食

- ・・・ヒミコの死, 内乱勃発
- ・・・アマテラス岩屋戸に隠れる

248年の日食

- ・・・トヨの即位, 内乱終結
- ・・・アマテラス岩屋戸から出る

を表したものと考えてよさそうです。記紀の成立は8世紀ですから、その数百年間で次第に変形していき、ヒミコとトヨという2人の女王がアマテラスという皇祖女神にまとめられたと考えられます。

共立即位の契機は天変

ではなぜ鬼道をよくする独身女性が女王に共立されたのか？そのわけは、その時起こった天変のためではないでしょうか。ある日突然起こった天変に人々は神の怒りに触れたと思い、戦いをやめて、日の神に仕える巫女を推し立てました。そのような大天変とは何でしょう？地震や津波のような長期間被害が出るものより、短期的ではあるが大ショックを与える天文現象の方が適しており、それには次のような現象が候補として考えられます。

- 1) 日食
- 2) 惑星集合
- 3) 大彗星
- 4) 客星

まず日食：146年～189年に西日本で見えた大日食は次の2つです[3]。

158年 7月 13日 夕方 皆既 若狭湾～伊勢湾 図5

168年 12月 17日 夕方 金環 九州・中四国 図6

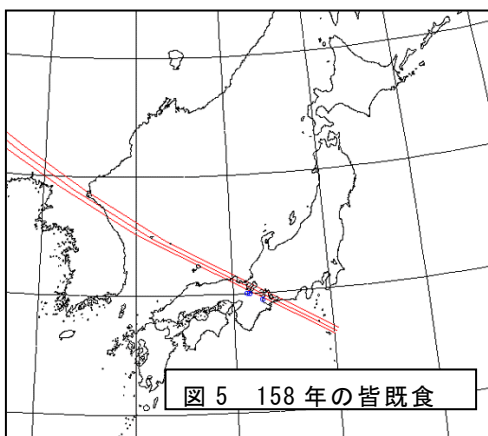


図5 158年の皆既食

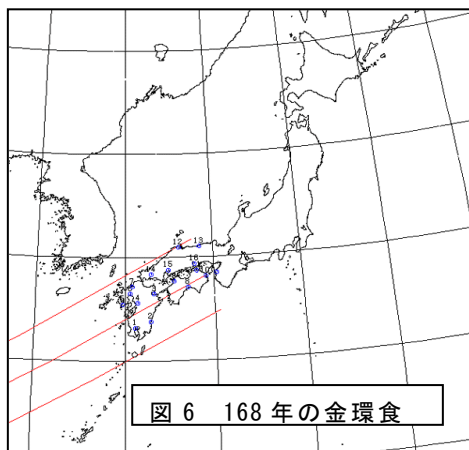


図6 168年の金環食

前者では日の入り前に皆既が起こりやがて復円しながら沈んでいきます。大和盆地では皆既帯から外れますが大日食で、また北九州でも日没直前に細い太陽が見られます。後者は金

環時間が長いことで有名で、九州各地では7～8分、東南アジアでは10分を越えたそうです。これもまた日没前の日食です。日食が起こったため戦いをやめたという伝承は中東にもあります

(タレスの日食 BC585 年)。

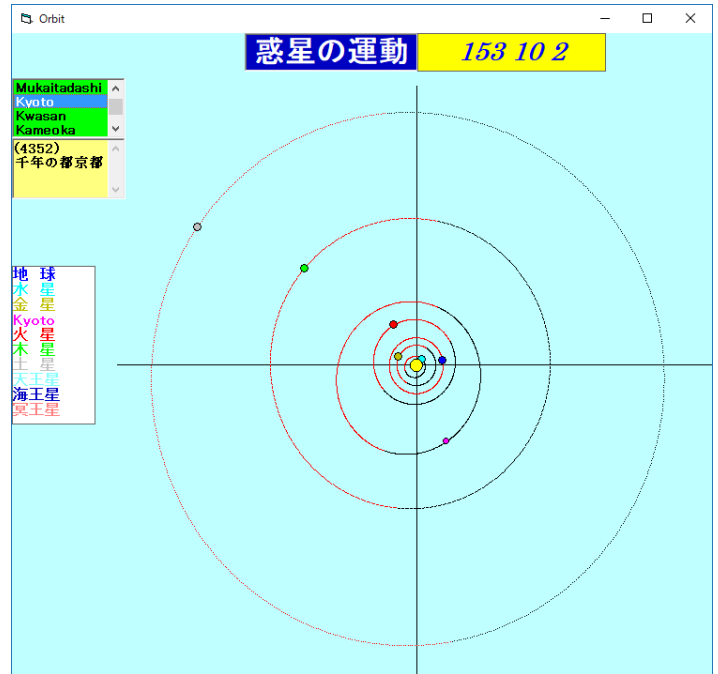
この間の 45 度以内の惑星集合は 2 回起こっていますが、人目を惹くようなコンパクトなものではありません。

| 日 時 | 範囲 | 星 座 |
|---------------------|-----|-----|
| 153 年 10 月 3 日 日の出前 | 30° | おとめ |
| 172 年 1 月 25 日 日没後 | 39° | うお |

。

後漢書にはこの間に 6 回も彗星の出現記録があります。

149 年,161 年,178 年,180 年,182 年, 188 年



ある日突然起こる天文現象で、最も劇的なのは超新星爆発です。前日まで見えなかった天空に突如として新たな星が現れる現象で、放射するエネルギーは 1 万倍以上も急増します。その原因は大質量星の最期の大爆発です。現在では毎年 100 個以上見つっていますが、望遠鏡使用前に観測された超新星の記録は 7 回しかなく、そのうち太字の 3 件は藤原定家の『明月記』に載っていて平安時代の陰陽師の観測によるものです。1006 年の超新星は半月より明るく輝いていたそうです。また 1054 年の超新星の残骸が「かに星雲」であり 20 世紀後半の高エネルギー天文学のモデルとなった花形天体であることは周知の通りです。その出現記録は日本と中国にしかありません。

表 1 望遠鏡なしの超新星観測史

| 年 | 出現星座 | 最大等級 | 型 | 距離 | 備考 |
|------|--------|------|----|---------|------------|
| 185 | ケンタウルス | -8 等 | I | 8200 光年 | RCW86 |
| 393 | さそり | -1 | ? | 3000 | G347.3-0.5 |
| 1006 | おおかみ | -9 | I | 7000 | 史上最輝星 |
| 1054 | おうし | -4 | II | 6500 | かに星雲 |
| 1181 | カシオペア | 0 | II | 10000 | クォーク星? |
| 1572 | カシオペア | -4 | I | 13000 | ティコ超新星 |
| 1604 | へびつかい | -2.5 | I | 13000 | ケプラー超新星 |

超新星出現の最古の記録は『後漢書天文志』に記載され、靈帝中平二年十月癸亥（=185年12月7日）に現われたそうです。この超新星残骸は RCW86 と呼ばれる

表2 SN185の各地の南中高度

| 地名 | 北緯 | 高度(2000年) | 高度(185年) |
|----------|------|-----------|----------|
| 飛鳥・長安 | 34.5 | -7° | 2° |
| 建業(南京) | 32 | -5 | 4 |
| ローマ | 42 | -15 | -6 |
| アレキサンドリア | 31 - | -4 | 5 |

淡い星雲でα Cenの近くにあり、現在黄河のほとりからは見えません。しかし地球の首振り(歳差)運動のため1800年前にはこの天域はもっと高く見え、洛陽での南中高度は約2度となります。

南中時刻は朝の8時ころ、当然太陽は昇っていて、その中で見えたとすれば非常に明るかったはず、1006年の超新星と並ぶ史上最輝星ということになります。この客星は1年半も見えていたそうです。翌年の春になれば深夜、地平線あたりでキラキラ輝いていたのが眺められたでしょう。客星の北にはケンタウルス座α星、その西(右)にはβ星、さらに南十字星が見えます。また東(左)にはさそり座が、その上には火星が明るく見えています(図7)。最近RCW86のX線観測から1800年前の爆発が検証されました。図8はこの超新星残骸をX線と赤外線でみた合成画像です[4]。



図7 185年の超新星

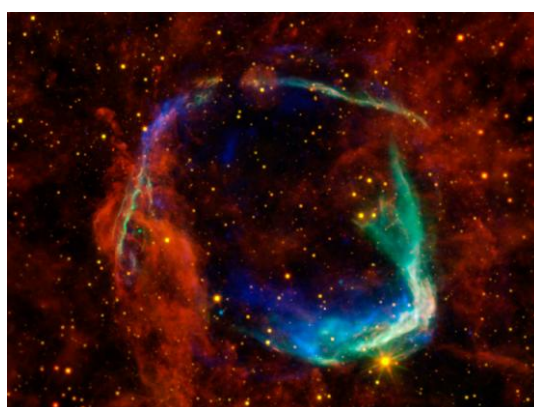


図8 超新星残骸 RCW86

この星を見たのは誰でしょう？ヨーロッパでは緯度が高くて見えません。エジプト、ペルシア、インドなどに記録が残っていてもよさそうですが、わかりません。中国では三国志物語の幕開けのころです。すでに活動を始めている曹操・劉備よりは、まだ幼子ながら南方にいた諸葛孔明や孫権の目に留まる可能性が高いでしょう。後漢書の記載者は多分江南の人から聞いたのでしょうか。

わが国からも小高い山に登れば南の地平線のあたりに見られます。ころは倭国大乱が終息するころ、そのきっかけを作ったのは、日食ではなくこの超新星の出現という天変かもしれません。いち早くこの客星を見つけたヒミコは諸国に停戦を呼びかけ、女王に共立されたのかもしれませんが、いやそう考えたいですね。p2に述べたようにこのヒミコは初代女王で、魏に使いを出したヒミコではありません。女王制はトヨまでは継続しますが、その後消滅してしまいます。中国の文献にも266年に倭女王から遣いが来たという記載が最後です。男系大和朝廷に併合されたのか、それとも逆に女王制邪馬台国が東遷して大和朝廷になったのか？それを天変から推測するのは無理なようです。

以上をまとめると下表のようになります[5]。

表 3 天変と歴史上の事件

| 年 | 天変 | 歴史上事件 |
|-----|-------|-------------------------------------|
| 158 | 皆既日食 | |
| 168 | 金環日食 | |
| 185 | 超新星出現 | 初代ヒミコ即位 倭国大乱終息 |
| 238 | | ヒミコ魏へ遣いを送り親魏倭王の称号, 金印紫綬, 銅鏡百枚などを受ける |
| 247 | 日食 | 魏使来る ヒミコ没 内乱 |
| 248 | 日食 | トヨ即位 |
| 266 | | トヨ 晋へ遣いを出す |

最後にアマテラス日食はいつでしょうか？伝承の元になった日食の候補は多数あり, その特定のための議論は 100 年以上も続いていますが決め手はないようです。ヒミコの時代から記紀が成立するまで何回か大日食は起こっていますが(247 年、248 年、522 年、628 年) どれかに特定するのではなく「それらの日食の記憶と初代ヒミコからトヨも含め推古・斉明までの女王の記憶がすべて重なって伝えられ, 7 世紀末にアマテラス伝説に纏められた。」と考えた方が自然ではないでしょうか。

参考文献

- [1] 山尾幸久『魏志倭人伝』 講談社現代新書 1972
- [2] 齊藤国治『宇宙からのメッセージ』 雄山閣 1995
- [3] 「日食・月食・星食情報データベース」 <http://www.hucc.hokudai.ac.jp/~x10553/>
- [4] RCW 86: All Eyes on Oldest Recorded Supernova
<http://chandra.harvard.edu/photo/2011/rcw86/>
- [5] 作花一志『天変の解読者たち』 恒星社厚生閣 2013